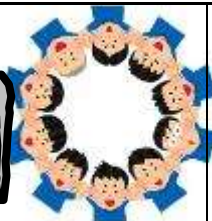


～ かがやく杉谷っ子のために ～

# ONE TEAM



島原市立第四小学校  
学校だより No.122  
令和5年2月3日(金)  
文責：校長 大槻浩二

## プロの演技に感動とあこがれ!

2月1日(水)、「文化芸術による子供推進事業」に応募し、実施が決定していた劇団「なかま」による児童劇「小さな『っ』が消えた日」の公演が行われました。

前日から大型トラックで舞台装置が運ばれ、演者の方々も大型バスで来校されました。一夜にして体育館が演劇の舞台になりました。

この事業は子どもたちが参加することも公演条件の一つです。6年生は、9月13日に劇団の方によるワークショップで演技指導を受けていました。当日も朝から実際の舞台でリハーサルが行われ、緊張感が高まりました。

10時30分開演、演者の方の迫力ある演技、大きな声で抑揚のあるセリフ返し、華麗なダンスと歌に圧倒されると同時に、その演出を盛り上げる音響と照明に子どもたちも引き込まれていきました。75分間の公演があっという間でした。



6年生は、3つのグループに分かれて3つの場面に登場。演者の方に刺激され、すばらしい演技でした。6年生の登場に他の学年の子どもたちは大喜び。そして、「やっぱり6年生はすごい！」の声があがりました。



コロナ禍でもあり、なかなか文化事業に触れることが少なかった子どもたちにとって貴重な体験となりました。「本物」にふれることで、自分の夢や憧れが広がった子どもがいることでしょう。これからもこのような事業に積極的に参加していきたいと思えます。

子どもたちの感想を一部紹介します。





【絵：1年 松本 滯人さん】



【絵：1年 松本 明日菜さん】

2年 網元 千夏

わたしは、劇団「なかま」のみなさんの「小さい『っ』が消えた日」を見て、すごいと思いました。わたしは、プロの劇団は見たことがないので、こんなに迫力があると思いませんでした。また見たいです。そして、後ろの星が急にできてびっくりしました。いろいろな工夫があっておもしろかったです。次に会える日を楽しみにしています。

6年 林田 恵凜

普段は、人前で歌ったり踊ったりすることがあまり得意ではありませんでした。けれど、今回の公演で思い切って「歌」のチームに入ってみると、劇団の人たちの明るさで緊張がほぐれ、毎回の練習が楽しみになりました。本番では、リハーサルの時に直したところに注意しながら、今までの練習を無駄にしないように自分の全力を出し切りました。たくさんの方が目の前にいたのに不思議と恥ずかしい気持ちが全くなく、ありのままの自分でいられたことに、とても心がすっきりしています。

6年 松本 侑子

私は、初めて演劇に参加してみて、友だちとセリフや言い方を工夫して演じることができました。とても緊張したけど、舞台の裏で「楽しもう」と声をかけてくださったので楽しむことができました。

高学年になってから全学年が集まって何かを一緒に楽しむことがあまりなかったので、とてもいい思い出になったし、恥ずかしがらずにチャレンジしてみることで心から楽しむことができたり、「チャレンジしてよかった」という気持ちになったりしたので、これからも挑戦してたくさん成長したいと思いました。また劇に出る機会があったら挑戦してみようと思います。

劇中では、自分の居場所を見失いそうになった小さい「っ」さんが、たくさんの人と支え合って立ち上がる姿を見て、私もあんな風に強い絆と心で結ばれた人になりたいと思いました。誰にだって個性がある。そして、その個性はみんなそれぞれ違う。違いがあるからこそ、人は人となつがる。だから、私はこれから、その「違い」を大切にしたいです。これから、お会いできるかどうかはわかりませんが、機会があればまた素晴らしい歌と演技を見せてください。今日は、本当にありがとうございました。



6年生  
最高でした!!  
いつもありがとうございます by 恵凜